

区分・種別	重要文化財(彫刻)		
名 称	もくぞうあみだによらいおよびりょうわきじざぞう 木造阿弥陀如来及び両脇侍坐像		
所 在 地	八幡浜市五反田		
所 有 者	保安寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和32年2月19日 国 (昭和29年11月24日 県)		
解 説	もと忠光寺の本尊、今は「梅之堂三尊仏」といわれ、堂は保安寺が管理する。その胎内には天和3(1683)年に宇和島藩主伊達宗利が修理したという銘がある。 中尊の阿弥陀如来坐像は、^{じょういん}定印を結んで^{けっかぶざ}結跏趺坐し、像高139.1cm、膝張り113.3cm、耳張り32.7cm、頂上から生え際まで20cm～34.8cmで、面相は温雅豊麗、^{えもん}衣文の刀法も柔らかく、よく均整のとれた像である。 観音菩薩坐像は、両手を前方で交え捧げて、^{じれんげきざ}持蓮華跪坐する来迎の姿で、像高79.7cm、膝張り40.9cm、耳張り16cm、頂上から生え際まで13.9cm～12.7cm、面相も豊麗で全体の均整がよくとれている。 勢至菩薩坐像は、両手を合掌して跪坐する来迎の姿で、像高82.4cm、頂上から生え際まで17.3cm～13.9cm、^{ひじ}臂張り43.3cmの極めて端麗な像である。3軀いずれもヒノキ材の寄木造で、平安時代の作とみられる。 なお、もとは地蔵・竜樹菩薩を従えた五尊形式であったが、現在その2体は奈良国立博物館の所蔵となっている。平安時代の阿弥陀五尊像としては本例が現存唯一で貴重である。		

